

令和 5 年度事業報告および決算について

はじめに

大阪大学工業会では、令和 2 年度に公益目的財産利用の終了後、新規会員の減少傾向もあり、大幅な赤字収支が継続している中、経費節減に努めると同時に、会員へのサービス維持・向上を目指し活動を行っているところ。

工業会本体の赤字額は令和 3 年度で約 1025 万円、令和 4 年度で約 705 万円であった。

令和 5 年度予算では約 690 万円の赤字を見込んでいたが、約 500 万円の赤字に抑えることができた。これは、収入面では、会員減少が想定より大きくなかったこと、資金活用を行ったこと、支出面では、ホームページの大幅改造を先送りしたことなどが要因である。

主な活動と収支を以下に示す。

I. 実施事業と費用

1. 会誌「TECHNO NET」の発行

- ・ 令和 5 年度より、会誌発行は、冊子発行年 1 回(4 月)、WEB 発行年 4 回(春・夏・秋・冬)とした。(令和 3 年:年 4 回冊子発行、令和 4 年度:年 2 回冊子発行 WEB 発行なし)
- ・ WEB 発行は外注せず、すべて事務局内で編集した。
- ・ これにより、会員への情報提供量を増加させるとともに、経費節減を図った。

【印刷製本費(費用)】 (【 】は経費項目、以下同じ) (郵送料含む)

- 令和 5 年度:1,626,853 円
- 令和 4 年度:3,468,059 円
- 令和 3 年度:6,450,106 円

- ・ 一方、冊子発行回数減少のため、広告収入は減少した。(令和 5 年度は WEB 版には広告を掲載しなかったが、令和 6 年からは WEB 版にも掲載することとし、令和 5 年秋・冬号にテスト掲載を行った)

【広告事業収益(収入)】

- 令和 5 年度: 92,450 円
- 令和 4 年度:142,400 円
- 令和 3 年度:678,080 円(前払い含む、年賀広告含む)

2. 大阪大学工業会賞の授与

- ・ 大阪大学工学研究科博士課程前期修了予定の優秀な学生を対象に対し、大阪大学工業会賞の授与を行った。
- ・ 令和 4 年度から制度を変更し、工学研究科の各専攻から候補者を推薦いただき、企画・展望ワーキンググループのメンバーにて審査を行い、受賞者を決定している。

- ・ 令和 5 年度については 15 名の方が受賞された。
- ・ 副賞として一人 3 万円を贈呈した。(令和 3 年までは 5 名以内、副賞一人 10 万円)
- ・ 賞状作成の内作化等の経費削減を行った。
- ・ 受賞者の研究内容については、各受賞者に紹介原稿を作成いただき、工業会ホームページで一般公開を行った。令和 6 年度テクノネット WEB 版でも順次公開予定。

【奨学事業費】(吹田祭支援約 24,000 円含む)

- 令和 5 年度費用:482,612 円 (受賞者 15 名)
- 令和 4 年度費用:432,517 円 (受賞者 13 名)
- 令和 3 年度費用:473,920 円 (旧制度受賞者 4 名)

4. 講演会の実施・共催

(1)通常総会における講演会(現地開催+オンライン開催)(費用0)

講師: 近畿経済産業局 局長 伊吹英明 様

演題:「関西経済の未来に向けて～経済産業省の取組紹介～」

(2)冶金会講演会の共催

- ・ 冶金会が実施する総会併設の講演会の共催を行った。(共催金 1 万円/回)
- ・ 開催内容は会誌テクノネットで紹介。

<第 1 回>

7 月 22 日(土)13:00~15:45 オンライン開催

・「持続可能社会形成のための冶金プロセス研究」

大阪大学大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻 教授

吉川 健 氏(H12・学界)

・「カーボンニュートラル時代の日本の鉄鋼業」

日本製鉄株式会社 技術開発本部 鉄鋼研究所 高靱性鋼材研究部長

重里 元一 氏(金属材料 H2)

<第 2 回>

3 月 25 日(月)16:30~17:20 オンライン・対面のハイブリッド方式

・「組織制御による新材料の開発と次世代自動車への適用」

トヨタ自動車株式会社 先端材料技術部

チーフプロフェSSIONナルエンジニア

射場 英紀 氏 (金属材料 S60)

(3)吹田祭 講演会

- ・ 吹田祭の講演会に協賛を行った。(協賛金 1 万円)
- ・ 11 月 6 日、吹田キャンパス内センテラスサロンにおいて、工学研究科准教授会主催の吹田祭講演会が実施された。

講師: 京都大学理学研究科物理学・宇宙物理学専攻 准教授 栗田光樹夫氏

テーマ:「東アジア最大の望遠鏡開発」

【講演会費】

- 令和 5 年度費用:33,411 円
- 令和 4 年度費用:89,096 円
- 令和 3 年度費用:33,411 円

5. 支部活動

- ・ 令和 5 年度は、東京支部の活動が本格的に実施されたが、過去の活動費ストックを活用いただいたため、本部からの支給は 0 となった。
- ・ 支部活動の詳細はテクノネット WEB 版各号を参照されたい

【研修費】

- 令和 5 年度費用:0 円 (本部からの支出)
- 令和 4 年度費用:0 円 (本部からの支出)
- 令和 3 年度費用:49,267 円 (本部からの支出)

6. ホームページによる情報発信

- ・ 大阪大学卒業生向け情報、工学研究科情報を含めホームページによる情報発信頻度を向上させた。ただし、ホームページの改定は一通りの改善点がまとまった段階で発注することとし、令和 5 年度は大幅な改定は見送った。

【情報配信サービス】(ホームページ管理費等)

- 令和 5 年度費用: 92,180 円
- 令和 4 年度費用:111,980 円
- 令和 3 年度費用:105,380 円

7. 会員管理システムの管理、メール配信の開始およびメールアドレス登録の促進

- ・ 当会の会員管理はスタンドアローンのデータベースで行っており、大量のデータ入力はシステム会社から出張してもらい作業を行っている。システム利用料および作業費として費用が発生する。(通常管理は事務局員が対応)
- ・ 会誌テクノネットの WEB 配信の連絡、イベントの適宜情報発信を行うため、令和5年1月より会員向けにメール配信を開始したが、既存の会員管理システムを利用したメール配信とし、費用をほとんどかけることなく配信が可能となった。
- ・ なお、個人情報保護の観点から、会員管理システムは通常はインターネットと切り離しており、メール配信時のみネット接続する方式となっている。
- ・ メール配信の送付先拡大のため、会誌などにおいてメールアドレス登録を呼びかけている。

【会員管理システム費】

- 令和 5 年度費用:246,400 円
- 令和 4 年度費用:237,600 円
- 令和 3 年度費用:237,600 円

8. 委員会活動(事業部門)

<編集委員会>

- ・ 会誌テクノネットの編集委員会を年4回開催し、執筆依頼の分担、読者の随筆のコーナー設置などについて検討を行った。
- ・ ZOOM 開催、現地開催併用としたが、工学研究科会議室利用のため費用は発生していない。

9. 総会・理事会・WG(管理部門)

以下の会合を実施した。

<通常総会>

2023年6月19日(月) 17時~18時

- ・ センテラスサロン現地開催および ZOOM の併設で開催
- ・ 総会後は講演会を開催(4. 参照)
- ・ 総会・講演会後に懇親会を実施した(於:工学研究科内ラ・シエーナ)

<理事会>

2023年5月22日(月) 17:30~18:30 (令和4年度実施・決算)

2024年3月22日(金) 17:30~18:30 (令和6年度計画・予算)

いずれもリモートで開催した。

<企画・展望ワーキング>

2023年4月14日、8月25日、12月6日、2023年3月8日

いずれもリモートで開催した。

<新年会>

2024年1月26日 中之島センター サロン・アゴラで開催

【会議費(管理用)】

- 令和5年度費用:135,910円(総会時懇親会、新年会)
- 令和4年度費用:0円
- 令和3年度費用:0円

II. 収入について

1. 会費収入および同窓会連合会還元金

- ・ 入会人数の減少傾向が継続しており、会費収入が減少している。
- ・ 同窓会連合会の還元金についても減少傾向にある。
- ・ 一方、賛助会員1社(山本金属製作所様)が加入された。

【受取会費】

- 令和5年度収入:2,718,000円
- 令和4年度収入:2,960,000円
- 令和3年度収入:3,460,000円

2. 産学人材育成事業業務支援手数料

- ・ 大阪大学工業会では下記3講座がそれぞれ独立事業として実施されており、この経理手続きを工業会本体で担っている。従来その手数料(内部振り替え)を会費など各事業の収入の5%としていたが、①③については令和4年度分から10%とし、②については令和5年度より変更を行った。

①応用化学系社会人教育講座

産学高分子塾及び個別企業のニーズに合わせたカリキュラムによる出張高分子塾を開催。

②機械工学系技術交流会

講演会及び機械工学関連分野を知るためのラウンドテーブルを開催。

③パワエレ技術者塾

実務につなげるパワーエレクトロニクス技術者の育成。

- ・ それぞれの実施内容については別紙1参照

【事務手数料】

- 令和5年度収入:1,702,723円
- 令和4年度収入:1,361,143円
- 令和3年度収入:740,657円

3. 資産運用

- ・ 従来国債で3000万円の資産運用を行ってきたが、令和5年度は、さらに3000万円分の社債等を購入し運用枠を拡大した。

【受取利息】

- 令和5年度収入:697,414円
- 令和4年度収入:600,071円
- 令和3年度収入:670,060円

工業会本体収支推移

	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度予算	令和5年度決算
収益	5,903,277	5,093,614	4,680,000	5,210,587
費用	16,149,857	12,142,247	11,601,000	10,175,076
収支(収益-費用)	-10,246,630	-7,048,633	-6,921,000	-4,964,489

以上